

「田園調布学園大学大学院共同研究助成報告書」

研究題目
「序説「子ども人間学」(仮)の出版に関わる教員の個別研究

研究代表者	共同研究者
安村清美	生田久美子、佐伯 胖、石橋哲成、犬塚典子、内藤知美、

【研究の背景】

「田園調布学園大学大学院人間学研究科子ども人間学専攻」は、「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に立つ「子ども人間学」を基礎として、人間学的学識に基づく質の高い実践家（省察的実践家）の養成を目指し、2015年4月出発した。

本書出版企画の趣旨は、「子ども人間学」を学とすることを模索しながら3年を経過した今、省察的実践家の範となるべく、これまでの授業をベースとしながらそれぞれの研究の専門分野から「子ども人間学」へとアプローチし、子どもや保育に対する学問的立場を明確にすることである。さらに、現在の問題の所在を明らかにしたうえで、今後につながる「子ども人間学」確立のための一歩としたい。

【研究目的】

上記のような背景に鑑み、人間学、教育学、保育学、社会福祉学など既存の学問領域を超越して「子ども人間学」という試みを広く社会に向けて発信するために、各教員が担当するテーマによる執筆に必要な研究を推進することを目的とする。

【研究方法】

- ・ 企画内容についての検討会議
- ・ 出版社の検討、確定
- ・ 教員個別の執筆内容の検討、調整、確認
- ・ 教員個別の執筆準備、調査、資料収集
- ・ 原稿執筆

【研究結果】

- ・ 2018年5月～8月

研究代表者による企画書作成および出版社への打診を行った。

編者予定者（研究代表者）を通して、執筆者の確定、執筆内容及びタイトルの仮確定のための打ち合わせ及びメール会議を行った。

- ・ 2018年9月～11月

ここまでの検討（タイトル、分担執筆内容の仮確定、出版社の確定）を経て、田園調布学園大学出版助成金申請のため「出版計画書」作成について出版社との打ち合わせを数回行った。「出版計画書」を本学に提出、審査を経て承認された。

- ・ 2019年2月

編者及び執筆者、出版社の編集者で出版会議を本学で行った。出版物全体のイメージや書式などの確認と、タイトルについて、また、教員個別の執筆内容の検討、調整、確認を行った。その結果、出版のタイトルは、最終的に『「子ども人間学」という思想と実践』と決定し、共通の出版に対するイメージをもって、個別の執筆準備に入ることができた。

- ・ 教員個別の執筆準備、調査、資料収集

① 「「アート」する子どもたち」の執筆に関して、子どもとアートをキーワードにした国内外の文献の収集及び研究会への参加を行った。これらにより、子どもと芸術教育に関する我が国における歴史提変遷や実践、子どもとアートの海外における現状やその実践における理論的背景について探究することができた。

② 「子どもを人間としてみる」という新しい保育観に基づいた制度設計のあり方を検討するために、学会参加、論文投稿などを行った。わが国において幼保無償化政策の導入が迫るなか、保育の「質」を担保していくための理論や視座を得ることができた。

③ 「大人・子どもの関係を変える子育て支援の可能性」については、フィンランド「ネウボラ」の理念・実践に基づき、行政による縦割り型支援から包括的支援に取り組みをシフトした福山市ネウボラにおいてフィールドワークを行った。特に、地域拠点を整備し、子育て、養育者—子どもを取り巻く多職種連携、大学—行政による子育てプログラムの実施、大学—保育所—行政の連携における「対話」について情報を収集し、子育て支援の方向性を探求した。

【考察および今後の課題】

本研究の結果をふまえ、考察としては以下の点が挙げられる。

(1) 研究（出版に向けた会議や企画書の執筆）に向けた準備段階から、編者と執筆者間の出版の内容に関する議論を通して、出版物のタイトル（『「子ども人間学」という思想と実践』）の決定及び出版社、本学の出版助成金の決定を受けることができた。

(2) 個別には、教員各自の執筆内容に応じた研究成果について出版会議を通して明らかにすることで、全体と部分の関係について考えながら、分担部分について資料・文献収集や研究会を通して研究を進めることができた。

本研究は、「子ども人間学」という思想と実践の確立と知見の発信を行うための取組であった。準備段階としての共同研究を通じた研究成果は、充実した意見交換を通して、執筆の意図の共有や内容の充実に向け基盤を作ることであったと考えられる。既存の学問領域を超越した学際的な研究の成果として、今年度末の出版に向けて「子ども人間学」という試みを広く社会に向けて発信することが課題でありミッションであると考えている。

用途内容	金額
専門分野関連図書費	101,115円
調査旅費、宿泊費	134,168円
資料収集経費	52,738円
出版打合せ交通費等	0円
事務用消耗品	101,944円
使用額合計	363,829円
助成決定額	922,000円